

国道289号「八十里越」の整備完了2023年度を目標

早期開通を期待する只見町の取り組み



▲（平成27年撮影）入叶津地内の工事土砂により出来上がる大麻平のボックスカルバート

国道289号は、昭和45年に国道として認定され、新潟県新潟市を起点として福島県いわき市に至る総延長30

4・4キロの道路です。このうち新潟県三条市（旧下田村）から只見町に至る県境部分が

いわゆる「八十里越」と呼ばれ、現在工事のため不通区間となっております。早期開通

を願う声が多いこの区間は、完成まで「あと10年」と言われ続けて既に40年以上が経過

しています。このような中、三条市内に救命救急センターを併設した

県央基幹病院が2023年度に開院する予定となっております。

福島県と新潟県では、この不通区間について同時期の開通を目指すとして一部で報じられました。

今回の特集では、現在の国道289号八十里越の工事区

間の状況と、早期開通を願う町の取り組みについてご紹介いたします。

国道289号 八十里越の工事

①工事区間

国道289号八十里越の工事区間は、「表1」のとおり三条市塩野渚字御所から只見町大字叶津字入叶津に至る総延長20・8キロで、国土交通

省と福島県、新潟県がそれぞれ工事を施工しています。

工事区間内にはトンネル14本、橋梁16本が計画され整備が進められています。この区間は豪雪地帯のため、工事は積雪のない半年間のみに限

られ段階的に進められておりますが、平成23年7月の新潟・福島豪雨では、第7橋梁の橋脚が流されるなど工事は難航

しています。

②工事の進捗

7月31日、「国道（289号）八十里越地点開発促進期成同盟会」の総会が開催され、国土交通省北陸地方整備局長岡

国道事務所や福島・新潟両県の担当者より、次のとおり国道289号八十里越区間の事業概要の説明と、工事の進捗率などが報告されました。

●国土交通省の施工区間（権限代行区間）約11・8キロ

工事進捗率は3月末現在で約79%であり、日本国内でもトップクラスの高さを誇る80m超の橋脚を備える

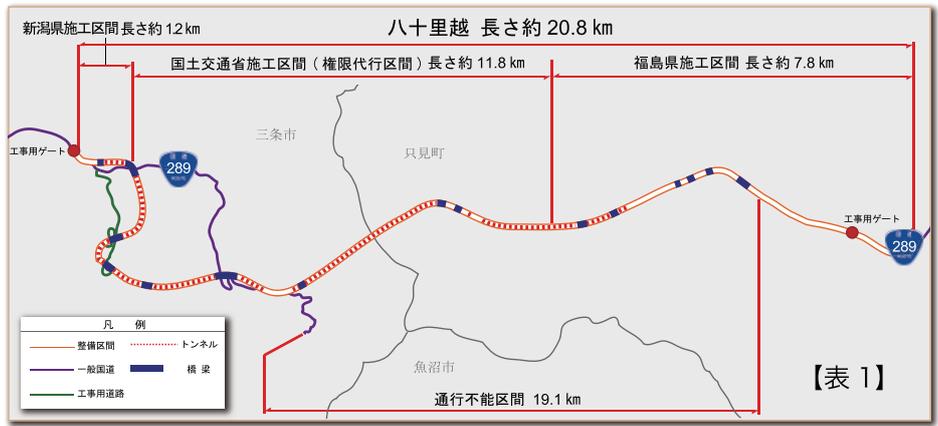
第5橋梁（新潟県側）に着手している。

●福島県の施工区間 約7・8キロ

平成29年度末までにスノーシエッド工、橋梁工、環境調査などを行い、工事進捗率87%を目指す。



▲八十里越古道の見学



【表1】



▲（平成26年撮影）新潟県側にある4号橋梁



▲（上/下）トンネル工事と橋梁工事の様子

●新潟県の施工区間

約1・2キロ

工事進捗率は89%となっている。残事業が舗装工、雪崩予防柵、トンネル付属施設などとなっている。

③歴史と自然環境

八十里越は8里（32キロ）ほどの山道で、福島県では最も長い峠道となっており、平成8年11月1日には文化庁から「歴史の道百選」に選定されました。八十里越は1里が10里とも思えるほど険しい道であったため、その名が付けられたといわれています。新潟県との交易にとって重要

な峠であり、幕末から戊辰戦争時にかけて越後長岡藩の家老・河井継之助が越えた峠としても知られています。

また、平成26年に「只見ユネスコエコパーク」に登録となったことから、この国道289号八十里越は「越後三山只見国定公園」など豊かな自然環境の中に位置するため、道路建設にあたっては自然環境への影響を把握するため「八十里越道路環境検討委員会」を設立し、学識経験者の指導・助言を得ながら慎重に調査や工事が進められています。

―早期開通のための

取り組み―

①八十里越道路暫定の

活用検討懇談会

町や三条市などでは、開通後の効果や利便性を実感してもらい地域間交流を深める目的で、工事区間を通り抜ける交流事業を展開しています。この事業は、町や三条市の他、

国、新潟県、福島県などで組織する「八十里越道路暫定の活用検討懇談会」の中で通り抜け事業の選定を行っています。この懇談会の中で選定された事業以外は工事区間を通

り抜けることができず、その中で只見町では次の事業を実施・支援しております。

②R289フルコース踏破

この国道289号の早期開通を願い7月29～30日、ルート289フルコース踏破実行委員会の主催で、「第7回日本列島横断（洋から海へ）R289フルコース踏破」が行われ町内の高校生26名が2日間にわたりタスキリレー方式で総延長約300キロを自転車で走破しました。

同実行委員会副会長の酒井正吉郎さんは出発式で「先日の報道で八十里越工事区間の



▲ R289 フルコース踏破に挑んだ町内の高校生と引率の皆さん（出発の様子）



▲ スタート地点のいわき市内を走行する高校生

完成目標が6年後と報じられた。その頃は皆さんも成人し、自分の車で通行できる時代になっているでしょう」と挨拶しました。

この踏破は、5人1組が1区間約10キロに区切られたコースをタスキリレーで繋ぐもので、初日はいわき市の勿

来の関を午前6時に出発し、難所の甲子峠や駒止峠を自転車で走破し、夕方に只見町の明和振興センターへ到着しました。2日目は早朝から只見町内を走り、八十里越工事区間内は車で移動。新潟県三条市経由でゴールの新潟県庁に午後5時頃に到着しました。

スタートからゴールまでの間、沿線の市町村長をはじめ、多くの住民の方々から声援を受け、事故なく無事ゴールすることができました。

③ 八十里越通り抜けツアー

只見振興センターでは、国道289号八十里越工事区間を越えて三条市へ抜ける「八十里越通り抜けツアー」を開催しています。このツアーは工事区間の視察だけでなく新潟県側の観光などを行い、開通後の利便性や効果について体感していただくものとなっています。

今年度は、既に「寺泊コース」や「弥彦コース」を実施し、今後は9月16～17日の1泊2日のコースと、10月8日の三条市日帰り満喫コースが予定されています。

④ 只見小学校の海洋教育

6月18日、只見小学校の海洋教育としての見学学習「八十里を越えて海へ」が、国道289号八十里越工事区間を通り抜け、新潟県の寺泊で行われました。この見学学習は、只見小の海洋教育「海とつながる只見町」の一環で、八十里越の工事区間や古道を見学後、日本海にある寺泊の海で地引き網体験など海に親しむ活動を行い、海とのつながりを学習しました。

⑤ 地域間交流を図る事業

このように開通を控えた国道289号八十里越は、学校教育にも活用されています。

国道289号八十里越区間の開通を見据え、只見町商工会と三条市の下田商工会（旧下田村）では様々な地域間交流事業が行われています。

毎年互いの地域を訪れ交流を深める「下田・只見町商工会八十里越交流事業」では、三条市・只見町の産業や観光の振興に向け、視察や交流懇談会などを開催しています。今年度は、10月18～19日の2日間、只見町を会場に行われ



▲ (写真/ヤマサ商店) 多くの方々から応援をいただきました



▲叶津地区で沿道から大きな声援を受ける生徒



▲ゴールの新潟県庁に到着した生徒



▲八十里越工事区間で説明を受ける只見小学生



▲八十里越通り抜けツアー

る予定です。

また、今年度からの新規事業として、三条市が誇る一大イベント「三条マルシェ」と只見町の一大イベント「水の郷うまいもんまつり」を繋ぎ八十里越区間を行き来するシャトルバスが運行されます。これは、地域間交流の促進を図り、八十里越区間の現状と開通後の効果や利便性を利用者に体感していただくという試みで初めて企画され、実施日は10月1日を予定しています。

— 開通後の未来 —

このように国道289号八十里越工事区間は、開通目標も示され開通までのカウントダウンが始まりました。これに伴い、只見町や三条市では活発な交流事業が年々多く開催されるなど、早期開通が期待されています。

開通後は、只見町・三条市間は約1時間20分で結ばれることとなり、三条市も会津若松市と同様に日常生活圏として、利便性が高まります。

さらに、開通によって只見

町の救急医療体制の充実が期待されています。現在、重篤な患者の救急搬送先は会津若松市内の病院が中心で、1時間30分程度を要しています。八十里越を通り抜け三条市の県央基幹病院に搬送する場合は、約50分で到着することができると、別名「命の道」とも呼ばれ、開通後の救命救急体制の向上も期待されています。

また、只見町の(株)会津工場と三条市内の企業では、既に企業間連携を行っており、開通後は更なる連携が期待されます。

観光面でも、新潟空港や上越新幹線燕三条駅へのアクセスが容易となり、新しい人の流れや観光資源の活用などにより、交流人口の拡大が期待されます。

今後、只見町や三条市では更なる連携を深め、開通後に向けた取り組みを計画し、両市町の連携を更に強化しながら推進していく予定です。